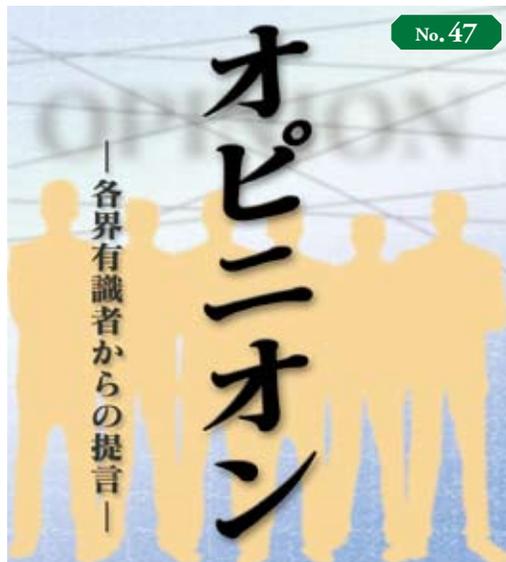


2008年はおだやかな年になるのか、それともまた事件の連続？

権丈善一（慶應義塾大学商学部教授）



No. 47

これまで多くの人たちは、財源調達問題の直視を避けて社会保障を論じてきた。しかしながら、「社会保障問題とは結局のところ、財源調達問題に尽きる」など、いつい書いてしまつたほどに財源調達論が一番重要な問題だと認識している私は、財源調達問題が選挙の最大の争点にならないことには、この国の社会保障、特に医療は委えられないと思つてきた。そして二〇〇八年、いよいよ、社会保障の財源調達問題が、政治の表舞台に立たされる状況が

整ってきたのである。昨年九月に発足した福田内閣の下では、すでに、かねてから負担増を言い続けてきた人たちがなる財政改革研究会が立ち上げられた。そして、この財政改革研究会は、消費税率を二〇一〇年代半ばに一〇〇程度に引き上げること掲げた「中間取りまよめ」を十一月二十一日に公表した。そこでは、消費税の使い道を社会保障給付の財源に限り、名称は「社会保障税」に変更するよう提言した。今や、仮に真の狙いが財政再建にあ

OPINION 国論三つどもえとなる財源調達論

二十年ほど前の大学院生のころ、スウェーデンの社会保障を研究していた後輩が、自慢気に、「スウェーデンという国はすごいんですよ。選挙で社会保障が大きな争点になっていっているんですから」と。私は、「オレたち日本人で良かったよなあ……」。あれから二十年が過ぎた。社会保障などという経済学のなかではマイナーな領域を、

二〇〇八年はどうだろうか——残念ながら、今あるダイハードⅣの次作『再分配政策の政治経済学Ⅴ』が制作される勢いをもつ事件が起こりそうな気がなまじいにもあらず。

数少ない履修者を相手に講義しながら、のんびりと生きていこうと思つていた。ところが、世の中、何がどうなったのか、とんでもないことに——映画『ダイハード』のなかのマクレーン刑事のように、ゆっくりとクリスマスを過ごしたいだけに、次から次に事件に巻き込まれる。わが身の不幸を愚痴りながら、時には退屈しのぎにシヨークを交えて相手を挑発するマクレーン？——時々、そんな心境になってしまつほど、社会保障をめぐって、今の日本、休む間もなく事件が起る。

る人たちも、目的税は財政硬直化をもたらすとして「社会保障税」に反対できる雰囲気ではなくなっているし、かつ増税はあり得ないと論じていた研究者たちも、徐々に負担増容認派へのシフトを進めている。こうした動きに対して、自民党の内部には反対の意思を示すグループもある。このグループは、小泉・第一次安倍内閣路線をリードしてきた、上げ潮政策の面々からなる。

OPINION 財源論争の行方は？

早晩とは言われないが、いずれは第一の立場にある者が勝つ。なぜならば、この国にはこれしか選択肢がないからである。しかし、そこにとどり着くまでは、紆余曲折がある。その理由は、われわれの生活における社会保障の役割を理解し切れない人、仮に社会保険の役割を理解できたとしても、これを守るためには負担増しか道はないことを理解し切れない人が普通であり、そういう普通の人たちの意識を利用して、権力を手中に収めることを狙う政治家の存在が、これまた普通だからである。

そして二〇〇八年、社会保障にかかわる人たちは、三つの立場のうち、いずれに付くかを選択を迫られることにならざるを得ない。社会保障に用途を限定した負担増を言う第一の立場——社会保障税の立場を支持するか、社会保障のためと言えども負担増は許せず、政府のムダを削減して財源を確保すると言いつける第二の立場を応援するか、それとも、再分配は成長の足かせになると見て、成長重視の視点から、社会保障を最小限にとどめる第三の立場——上げ潮政策の立場を信じるかである。

ここで私は、社会保障関係者、例えば崩壊が着々と進みゆく医療の従事者二百万人が、もし負担増が実現した場合での一番の論功行賞を求めたいのであれば、彼らは第一

OPINION 負担なくして福祉なし

医療関係者には、第三の立場を支持するものは、さすがにいなさそうではあるが、なかには、政府のムダをなくせば、負担増がなくても医療崩壊の阻止をはじめとして、日本の福祉を健全化できると言う人たちが——先の例では第二の立場を支持する人たちの影響力が大きい。ゆえに、医療崩壊阻止のための財源が確保される見通しが一向に立たない状態に陥っている。第二の立場を支援する論者は、

かの選択を迫られることにならざるを得ない。社会保障に用途を限定した負担増を言う第一の立場——社会保障税の立場を支持するか、社会保障のためと言えども負担増は許せず、政府のムダを削減して財源を確保すると言いつける第二の立場を応援するか、それとも、再分配は成長の足かせになると見て、成長重視の視点から、社会保障を最小限にとどめる第三の立場——上げ潮政策の立場を信じるかである。

も少なくなる。長い目で見れば、いずれ第一の立場にいる者が勝つとはいえず、第一の立場にいる政治家は、二〇〇八年、この国では相当に不利な立場に置かれる。次期選挙で、手傷を負う者もかなりの数出てくるであろう。そうした犠牲を払ってでも、二〇〇八年、いや、その先の将来にでも、万が一、社会保障に用途を限定した負担増が実現された時、第一の立場を貫いた政治家は、第二、第三の立場を支持して、自分たちの足を引っ張り続けてきた者たちを厚遇するだろうか。

OPINION 負担なくして福祉なし

医療関係者には、第三の立場を支持するものは、さすがにいなさそうではあるが、なかには、政府のムダをなくせば、負担増がなくても医療崩壊の阻止をはじめとして、日本の福祉を健全化できると言う人たちが——先の例では第二の立場を支持する人たちの影響力が大きい。ゆえに、医療崩壊阻止のための財源が確保される見通しが一向に立たない状態に陥っている。第二の立場を支援する論者は、

も少なくなる。長い目で見れば、いずれ第一の立場にいる者が勝つとはいえず、第一の立場にいる政治家は、二〇〇八年、この国では相当に不利な立場に置かれる。次期選挙で、手傷を負う者もかなりの数出てくるであろう。そうした犠牲を払ってでも、二〇〇八年、いや、その先の将来にでも、万が一、社会保障に用途を限定した負担増が実現された時、第一の立場を貫いた政治家は、第二、第三の立場を支持して、自分たちの足を引っ張り続けてきた者たちを厚遇するだろうか。

特別会計には膨大なムダが潜んでおり、「特別会計予算を一部カットしただけで、二十兆円捻出できる」増税ではなく、歳入カットに全力を注ぐ。だが、これはまったくの誤りである。特別会計の大半は、社会保険関係や地方交付税および国債整理基金などで構成されており、簡単に削れる性質のものではない。公共投資も一九九八年度以降、年々減り続け、対GDP比で

OPINION 負担なくして福祉なし

医療関係者には、第三の立場を支持するものは、さすがにいなさそうではあるが、なかには、政府のムダをなくせば、負担増がなくても医療崩壊の阻止をはじめとして、日本の福祉を健全化できると言う人たちが——先の例では第二の立場を支持する人たちの影響力が大きい。ゆえに、医療崩壊阻止のための財源が確保される見通しが一向に立たない状態に陥っている。第二の立場を支援する論者は、

も少なくなる。長い目で見れば、いずれ第一の立場にいる者が勝つとはいえず、第一の立場にいる政治家は、二〇〇八年、この国では相当に不利な立場に置かれる。次期選挙で、手傷を負う者もかなりの数出てくるであろう。そうした犠牲を払ってでも、二〇〇八年、いや、その先の将来にでも、万が一、社会保障に用途を限定した負担増が実現された時、第一の立場を貫いた政治家は、第二、第三の立場を支持して、自分たちの足を引っ張り続けてきた者たちを厚遇するだろうか。

権丈善一
慶應義塾大学商学部教授・博士(商学)。昭和37年生まれ。平成14年より現職。主な著書には『再～等分配政策の政治経済学Ⅰ』(慶應義塾大学出版会)がある。